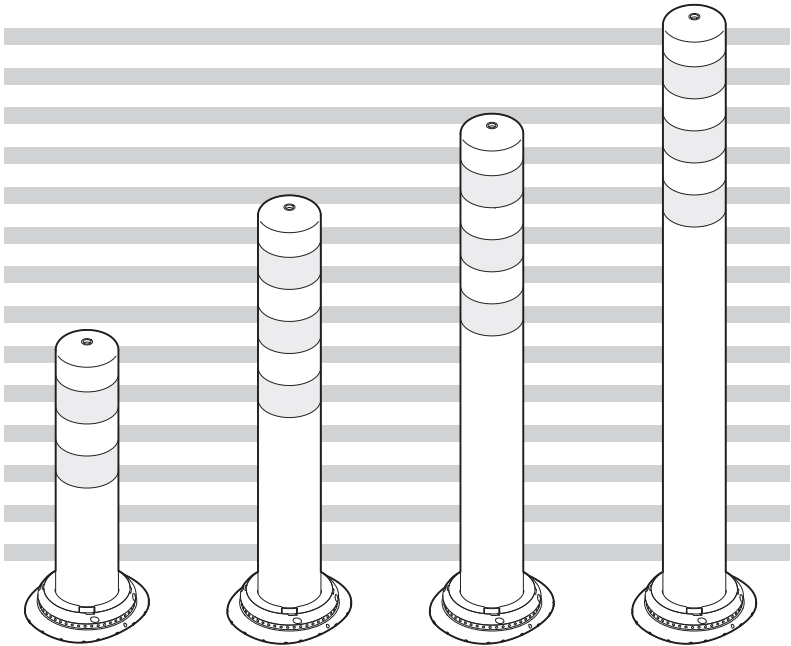


セキスイ

ポールコーンCITY R 取扱説明書

接着タイプ・Fアンカータイプ

※施工業者の方へ／この取扱説明書は、工事完了後ユーザー様にお渡しください。
※ユーザー様へ／この取扱説明書は、メンテナンス時にも必要です。大切に保管してください。



使用上のご注意

このたびはセキスイポールコーンCITYRをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
お求めの製品を正しく使用していただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なおこの取扱説明書は、施工終了後ユーザー様にお渡しください。

※製品外観は、時間の経過とともに退色していきます。
メンテナンスなどで部材を新しく交換した場合、色が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。



注意

誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が想定される内容を示します。



※誤った取り扱いをすると、製品の損傷が想定される内容を示します。



※施工・組み立て上の注意点およびその内容を示します。

設計者の方へ



注意

接着タイプは、コンクリート面上、新設のライン上および新設の舗装上へは設置しないでください。
十分な接着強度が得られず、製品が外れるおそれがあり危険です。
また、車両の頻繁な踏み越えが想定される場所への設置はご遠慮ください。
製品が外れる恐れがあり危険です。
緑石・排水溝付近など転圧が不足するおそれのあるアスファルト舗装や柔らかい状態のアスファルト舗装に設置した場合、車両などの接触により、舗装材表面が製品側に付着した状態で路面から離脱することがあります。
このような場所への設置には、アンカータイプをご使用ください。



注意

砂場付近や舗装されていない箇所など、過度な粉塵・砂埃が溜まる箇所には設置しないでください。
粉塵・砂埃が原因で、ベースと本体が着脱できない可能性があります。



※設置位置はなるべく平らな場所を選び、障害物がある場所、凹凸や勾配のある場所は避けて設置してください。



※海岸などの塩分の多い場所には設置しないでください。
このような場所に設置しますと、製品が腐食するおそれがあります。



※炎の横や加熱のおそれのある場所には設置しないでください。
製品が溶けたり、変色・変形します。

施工業者の方へ



警告

施工を安全に行えるように、現場周辺にはカラーコーンや工事用バリケードなどの安全用具の設置、または交通規制などを行ってください。



警告

接着タイプの施工には、当社ジスロンボンドおよび砂入りのエポキシ接着剤はご使用にならないでください。十分な接着強度が得られず、外れるおそれがあり危険です。当社ロードボンドをご使用ください。

《 施工上の注意 》



※接着剤の硬化時間以上に、必ず養生してください。
また、施工後6時間以内の製品への加圧・衝撃は避けてください。
十分な養生時間をとらずに交通開放を行いますと、製品にがたつきなどの不具合が生じたり、路面から外れるなどして危険です。十分にご注意ください。



※気温5℃以下の時、降雨時、降雪時には施工しないでください。接着剤が硬化しない場合があります。
夏期は、接着剤の使用できる時間が極端に短くなります。混合後は速やかにご使用ください。



※施工する際、道路の表面が濡れていないことをご確認ください。



※接着剤の硬化時間の目安は以下の通りです。
・夏期(路面温度40℃) 1時間以上 ・冬期(路面温度10℃) 3時間以上
・常温(路面温度25℃) 1時間30分以上

ユーザー様へ



警告

製品設置後は、定期的にゆるみや破損がないことを確認してください。
必要な場合は、増し締め・ベース部の清掃・部品の交換など適切な処置をとってください。
ゆるみや破損を放置しますと思わぬ事故につながる場合があります。

○本製品の仕様は、機能・品質改良のため予告なく変更する場合があります。



積水樹脂株式会社

●ご相談窓口 担当事業部 TEL.03-5400-1847

施工前にご準備ください

施工タイプ	準備していただく機械・工具・材料など	使用用途
接着／アンカー	カラーコーン、工事用バリケード	作業員の安全確保
	洗浄ブラシ	設置面、孔内部の清掃
	コンベックス	ベース間ピッチの測量
	チョーク or チョークリール	ベース設置位置および孔位置のマーキング
	接着剤攪拌用容器	接着剤の攪拌
	接着剤塗布用ヘラ	接着剤の塗布
	接着剤（エポキシ系）※	路面設置・固定
アンカー	ドライバー（マイナス刃巾6mm以下）	製品交換
	コアカッター またはコンクリートドリル φ40	孔開け アンカー増し締め
	プライヤー or ラジオペンチ	アンカー増し締め
	ラチェットハンドル or T型ハンドル	アンカー増し締め
	M16ソケット (全長40mm以上 エクステンションバー使用可)	

※当社ロードボンドをご使用ください。

接着タイプ 施工要領

1 部材の確認

施工される前に必ず、納品された部材と納品書が一致するかどうか、ご確認ください。

	部 材 名	数量	備 考
1	取扱説明書	1	—
2	本体ユニット	1	—
3	ベース	1	—
4	固定ピン	1	—

2 設置位置の決定

なるべく平らな場所を選び、図面のベース設置ピッチにしたがい、コンベックスおよびチョークまたはチョークリールなどで設置場所に目印を付けてください。
障害物がある場所や凹凸のある路面は避けてください。
また、道路の接着面は濡れていないことをご確認ください。

3 設置面の清掃

設置面の石粉・砂などは、ブラシやエアガンなどできれいに清掃してください。

4 本体ユニットの組み立て

本体ユニットをベースに取り付けてください。

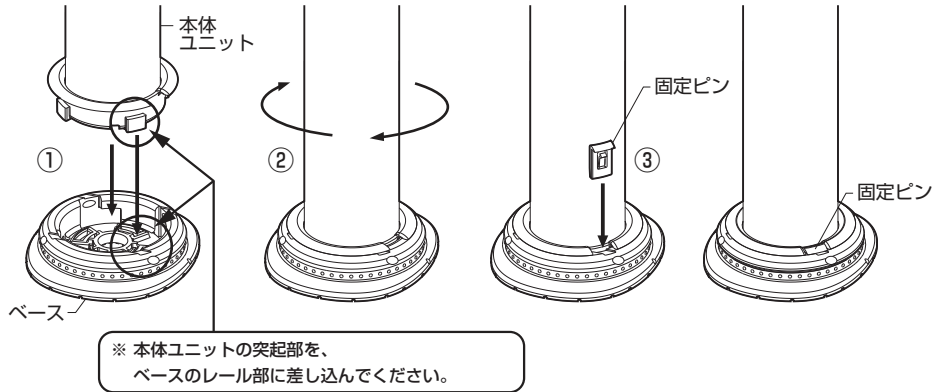
- ①本体ユニット下部の突起部をベースのレール部に差し込んでください。
- ②本体ユニットを回転させてください。



※本体ユニットの差込位置は下図を参照してください。

※本体ユニットを差し込んだ後、固定ピンを差し込むためのレール部が見えるまで回転させて、本体ユニットがベースから抜けないように取り付けてください。

- ③本体ユニットを設置後、固定ピンをレール部に差し込んでください。
固定ピンは最後まで差し込んでください。



5 接着剤(エポキシ系)の混合

主剤(白)と硬化剤(黒)をそれぞれ同量容器に入れ、白と黒のすじがなくなりグレーになるまでよく混ぜ合わせてください。

製品1基当たりの使用量(主剤+硬化剤)	
ロードボンド	約200g／1基



※当社ジスロンボンドおよび砂入りのエポキシ接着剤は、ご使用にならないでください。
十分な接着強度が得られません。

※接着剤は2液性ですので、混合比を必ずご確認ください。
混合比を間違えると硬化不良を起こし、接着できない場合があります。

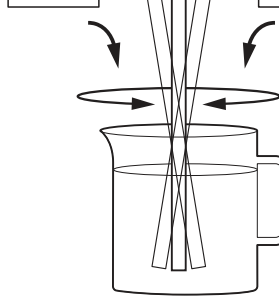
※各接着剤の使用できる時間は、
混合後、気温25℃で約20分程度です。

※接着剤は、当社ロードボンドをご使用ください。

《混合比》
1：1

主 剤

硬化剤



6 接着剤の塗布

接着剤を塗布する前にまず、ベース部底部のほこり・油分を取り除いてください。

次に、接着剤をベース部底面の凹凸部に十分充満するように塗布してください。
設置面に凹凸がある場合は、必ずベース部の設置面に接着剤が接着するように、接着剤を多めに塗布してください。



※ベースおよびスワレ反射体に接着剤が付着した場合は、すぐにきれいな布で拭き取ってください。

接着剤

ベース部底面

※ベース部底面に貼っているステッカーは、剥がさないでください。

ベース

ステッカー (4箇所)

7 ベースの設置

※底面に接着剤を塗布したベースを設置面にしっかり押し付けて、接着してください。
接着後、ベースと路面が密着してしっかり固定されているかを確認し、周りにはみ出した接着剤を取り除いてください。



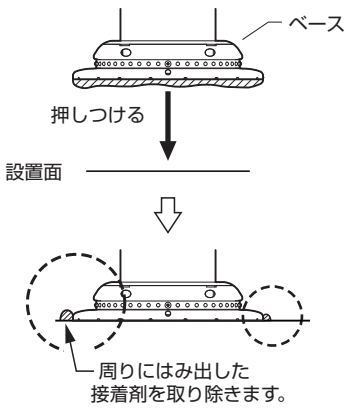
※製品を複数基設置する際は、通りを出してから固定してください。

※ベースおよびスフレ反射体に接着剤が付着した場合は、すぐにきれいな布で拭き取ってください。

※接着剤の硬化時間のめやすは以下のとおりです。
夏期(路面温度40℃) 1時間以上
常温(路面温度25℃) 1時間30分以上
冬期(路面温度10℃) 3時間以上



※接着剤の硬化時間以上に必ず養生してください。
養生時間前に交通開放を行いますと、製品にがたつきなどの不具合が生じたり、路面から外れるなどして危険です。
十分にご注意ください。



8 確認

製品が、図面に記載された寸法通りに施工されたか、ご確認ください。
最後に、固定ピンに浮きがないことをご確認ください。

アンカータイプ 施工要領

1 部材の確認

施工される前に必ず、納品された部材と納品書が一致するかどうかご確認ください。

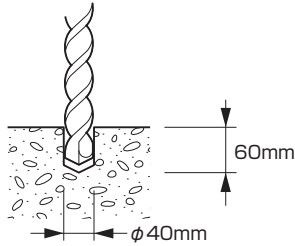
	部 材 名	数 量	備 考		部 材 名	数 量	備 考
1	取扱説明書	1	—	5	アルミアンカー	1	—
2	本体ユニット	1	—	6	M16アンカーボルト	1	—
3	ベース	1	—	7	M16座金	2	—
4	固定ピン	1	—	8	M16バネ座金	1	—
				9	離型紙	1	—

2 設置位置の決定

なるべく平らな場所を選び、図面のベース設置ピッチにしたがい、コンベックスおよびチョークまたはチョークリールなどで設置場所に目印を付けてください。障害物がある場所や凹凸のある路面は避けてください。また、道路の接着面は濡れていないことをご確認ください。

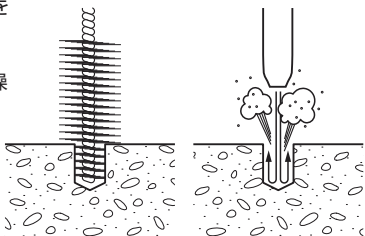
3 孔開け作業

目印を付けた場所に、ドリルで孔を開けてください。
孔開け径・深さは、図を参照ください。



4 設置面の清掃

接着剤を注入する前に、孔内部・設置面の石粉・砂などを金ブラシやエアガンなどで清掃してください。
また、孔内部・設置面が濡れている場合は、完全に乾燥させてください。
※清掃の際は、粉塵にご注意ください。

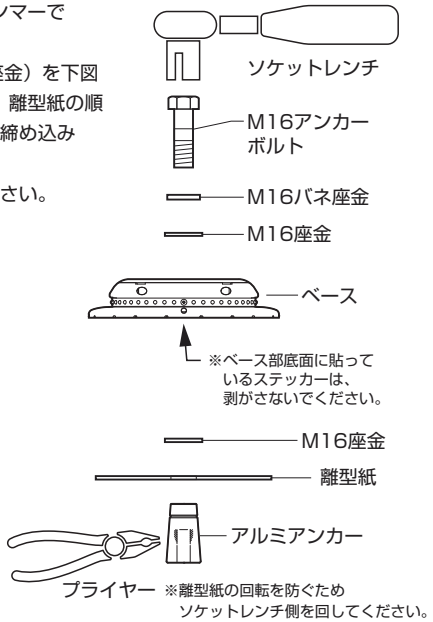


5 ベースとアンカーの組み立て

ベースを裏返しにして段ボールなどの上に置き、ベース底面の中央部にM16アンカーボルトをあてがい、ハンマーでたたいて打ち抜き穴を開けてください。
次にベースにM16アンカーボルト（バネ座金+座金）を下図のように差し込み、ベース底面側からM16座金、離型紙の順にアンカーボルトにはめ込み、アルミアンカーで締め込み固定してください。
※ハンマーを使用される際は、殴打にご注意ください。



※アンカーをベースにしっかり固定させるため、アルミアンカーをプライヤーなどではさんで押さえながら、アンカーボルトをソケットレンチで増し締め固定してください。



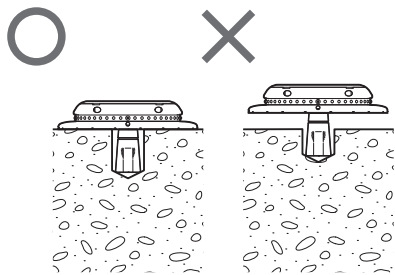
6 ベースの仮設置

ベースに取り付けたアンカーに緩みがないことを確認した後、ベースを仮設置し、アンカーが孔の中に入るか、路面から浮き上がらないかを確認してください。



※アンカーに緩みがあれば、締め直してください。

※ベースが浮き上がる場合は、浮き上がらないよう孔を深くしてください。



7 本体ユニットの組み立て

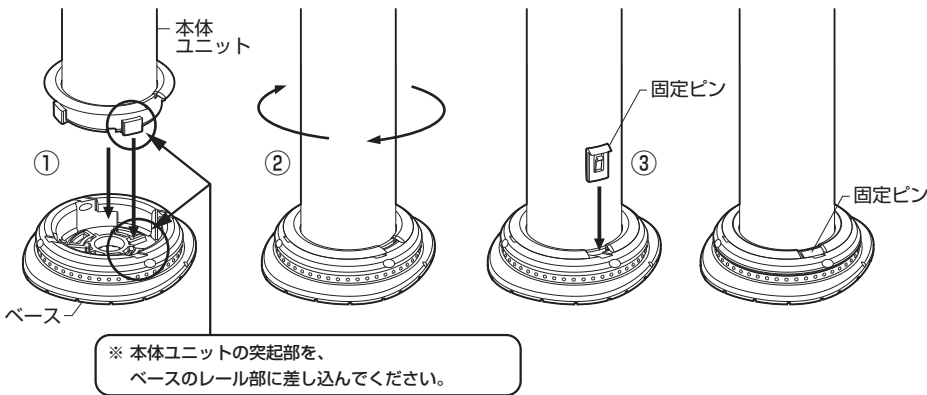
本体ユニットをベースに取り付けてください。
①本体ユニット下部の突起部をベースのレール部に差し込んでください。
②本体ユニットを回転させてください。



※本体ユニットの差込位置は下図を参照してください。

※本体ユニットを差し込んだ後、固定ピンを差し込むためのレール部が見えるまで回転させて、本体ユニットがベースから抜けないように取り付けてください。

③本体ユニットを設置後、固定ピンをレール部に差し込んでください。
固定ピンは最後まで差し込んでください。



8 接着剤(エポキシ系)の混合

主剤(白)と硬化剤(黒)をそれぞれ同量容器に入れ、白と黒のすじがなくなりグレーになるまでよく混ぜ合わせてください。

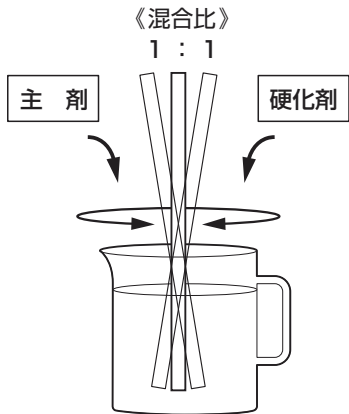
製品1基当たりの使用量(主剤+硬化剤)	
ロードボンド	約110g/1基



※当社ジスロンボンドを使用される場合は、ジスロンボンドの取扱説明書にしたがってご使用ください。ジスロンボンド使用量は、約110g/1基です。

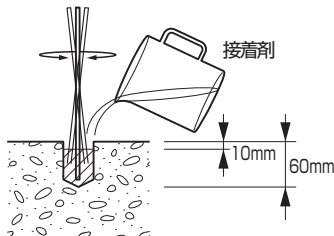
※接着剤は2液性ですので、混合比を必ずご確認ください。混合比を間違えると硬化不良を起こし、接着できない場合があります。

※各接着剤の使用できる時間は、混合後、気温25℃で約20分程度です。



9 接着剤の注入

接着剤は孔の表面から約10mm下まで注入します。
接着剤注入後、接着剤と孔の表面をなじませるため、よくかき混ぜてください。



10 製品の設置

アンカーに緩みがないことを再度確認します。
確認後、製品を左右にゆらしながら孔に挿入してください。

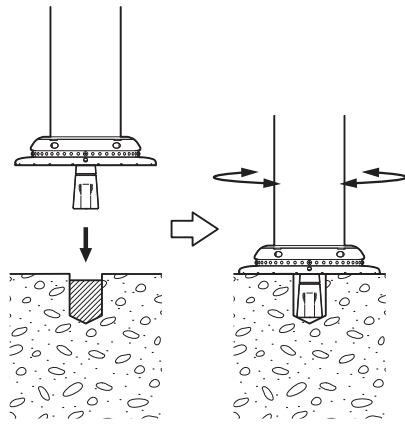


※製品を複数基設置する際は、通りを出してから固定してください。

※接着剤の硬化時間のめやすは以下のとおりです。
夏期(路面温度40℃) 1時間以上
常温(路面温度25℃) 1時間30分以上
冬期(路面温度10℃) 3時間以上



※接着剤の硬化時間以上に必ず養生してください。養生時間前に交通開放を行いますと、製品にがたつきなどの不具合が生じたり、路面から外れるなどして危険です。
十分にご注意ください。



11 確認

製品が図面に記載された寸法通りに施工されたか、ご確認ください。
最後に、固定ピンに浮きがないことをご確認ください。

本体ユニットの交換について

1 本体ユニットの取り外し

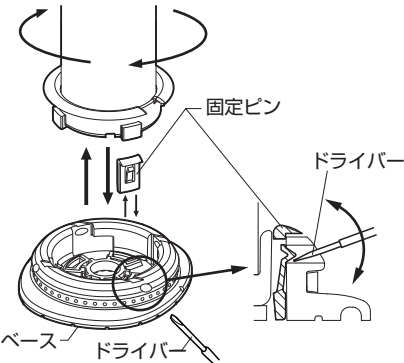
固定ピン下部にある丸穴にドライバーを差し込み、固定ピンの凸部を押しながら引き抜いてください。
固定ピンを外した後、本体ユニットを回転させて、ベースのレール部から抜き取ってください。

2 本体ユニットの組み立てと固定

本体ユニットの取り外しと逆の手順で、新しい本体ユニットをベースに取り付け、固定ピンでベースに固定してください。



※本体ユニット交換の際は、ベースに亀裂や破損がないことを確認してください。
亀裂や破損がある場合には、ベースも交換してください。
ベースに亀裂や破損がある状態で使用すると本体ユニットが外れるなどして危険です。



3 確認

最後に、固定ピンに浮きがないことをご確認ください。